

東京都初記録・稀な記録の鳥たち — 11

(写真は裏表紙に掲載)

東京都初記録 キガシラセキレイ *Motacilla citreola*

22年程前の古い記録ですが、東京都初と思われるキガシラセキレイ雌1羽の記録を報告します。

観察場所：三宅島三宅村坪田 東京都畜産試験場三宅分場(現在の東京都島嶼農林水産総合センター)

観察期間：1995年5月4日(翌日以降の状況は不明)

発見者：渡部良樹氏

観察状況：都道212号に接した牛の飼育場(20×10m程度)で採食していて、時々「ジッ」という声を出していました。三宅島自然ふれあいセンターアカコッコ館に設置のノートには、前日の5月3日にも同所で観察されたことが書かれていましたが、詳細は不明です。

黄色の眉斑が耳羽を経て喉の黄色の部分とつながっていること、額が黄色であること、体下面が黄色味を帯びていることなどから、キガシラセキレイの雌と考えられます。

解説：その後、八丈島で雌1羽(2010年5月 詳細不明：こっこめ通信2010)、小笠原群島父島(詳細不明：日本鳥学会2012)の記録があります。さらには神津島で雄成鳥夏羽1羽(2017年4月14日から約1週間 桜井基計氏：当会報ユリカモメ2017年9月号)の記録があります。(野鳥記録委員 渡部良樹)

東京都初記録 セグロサバクヒタキ *Oenanthe pleschanka*

観察場所：神津島村 前浜港芝生広場

観察期間：2017年4月20日頃～24日

発見者：桜井基計氏

観察状況：発見場所は港に隣接する芝生の広場で、周囲は道路とインターロッキングの広場と船客待合所等の施設があり、普段は広場自体に人の出入りは多くありません。本種1羽が広場を囲うフェンスから芝生に降りて昆虫など捕食し、またフェンスへ戻るという行動を繰り返していました。(桜井基計)

解説：今回記録された個体は雄第1回夏羽と思われます。日本で記録があるヒタキ科サバクヒタキ属の4種のうち、東京都ではサバクヒタキとハシグロヒタキの2種がそれぞれ数例ほど記録されていますが、セグロサバクヒタキは東京都初記録となります。(野鳥記録委員 川内 博)

東京都初記録 オニカッコウ *Eudynamis scolopaceus*

三宅島でオニカッコウ1羽が鳴き声により確認されましたが、これは東京都初記録となります。

観察場所：三宅島三宅村坪田 大路池

観察期間：2016年6月9日～10日

発見者：Chris Cook氏

観察状況：6月9日の早朝にオニカッコウと思われる鳥の声を聞いたとChris Cook氏より情報提供を受け、アカコッコ館レンジャーの大久保香苗氏が6月10日に村道大路池沿いにICレコーダーを設置しました。午前4時から8時までタイマー録音を行った結果、5時6分から約6分間に渡って「ko-el」と聞こえる囀りが録音され、オニカッコウと同定されました。

解説：伊豆諸島におけるオニカッコウの初記録として、日本野鳥の会発行の学術雑誌の Strix の33号に論文発表されたものです。報告にあたっては、論文著者の大久保香苗氏にご協力頂き、論文に掲載された音声の声紋を日本野鳥の会の許諾を得て転載しました。(裏表紙参照)

(野鳥記録委員 鈴木弘行)

稀な記録 オオグンカンドリ *Fregata minor*

伊豆大島で雄成鳥を含む複数のオオグンカンドリが観察されました。東京都では稀な種で、雄成鳥の記録や複数個体の同時確認は日本国内でもかなり珍しいことです。

観察場所：大島町元町の和泉浜および大島町岡田の野田浜

観察期間：和泉浜：2016年8月23日9:00頃と15:00頃・野田浜：同日12:30頃

発見者：願法真理美氏

観察状況：朝は1羽で南下していき、昼と夕方は3羽で悠々と滑空していました。夕方の3羽はかなり地上近くまで降りて来ることがありましたが、その後に南下していきました。(願法真理美)

解説：ほぼ全身が黒色で喉が赤い雄成鳥と考えられる2個体、胸が白く頭が黒と白のまだら状の雄3年目と推定される1個体、頭、胸、腹、脇などが白い性不明の2年目若鳥と推定される1個体、全部で少なくとも4個体が撮影されていますが、それより多くの個体がいた可能性もあります。なお、同年8月下旬～9月上旬に千葉県銚子市と茨城県神栖市でも雄成鳥を含む複数個体が記録されています。

(野鳥記録委員 渡部良樹)

稀な記録 ニシオジロビタキ *Ficedula parva*

観察場所：府中市多磨町 都立武蔵野公園

観察期間：2016年11月27日より2017年1月20日頃

発見者：江口欣照氏

観察状況：11月27日午前9時頃、公園内のバーベキュー広場にて「ジジジ」と地鳴きしながら高木を移動して採餌する1羽の鳥を発見しました。地鳴きは何度か聞いたことがあり、オジロビタキ類とすぐにわかりました。なかなか確認ができませんでしたが、撮影した画像によりニシオジロビタキと確認できました。前日にはいなかったのが、この日が初認となります。数日後の12月2日に写真家の叶内拓哉氏に連絡し、ニシオジロビタキ雄成鳥を確認していただき情報公開に至りました。(江口欣照)

解説：東京都内では本種の記録は数例ほどありますが、それらは第1回冬羽あるいは雌の記録で、雄成鳥の記録は初めてと思われます。なお、ほぼ同時期(2016年12月頃～詳細不明)に武蔵村山市 都立野山北・六道山公園で雌成鳥と推定される1羽が観察されています。

(野鳥記録委員 川内 博)

稀な記録 シジュウカラガン *Branta hutchinsii*

観察場所：大田区西六郷 多摩川下流域(六郷橋～多摩川大橋)

観察期間：2016年3月20日～4月15日以降

発見者：水野育己氏

観察状況：3月20日の午前7:30頃、六郷橋より1Km程上流の川面で、ヒドリガモの群れに混じるシジュウカラガン1羽を観察撮影しました。翌日の3月21日には野鳥観察の知人の成田保氏が六郷橋近辺で確認しています。また4月上旬にはこの地域で野鳥を撮っている女性から、多摩川大橋近辺にこの個体が出たと聞きました。少なくとも4月15日まではほぼ同じ地域で生息を確認しています。(水野育己)

解説：当初は山階鳥類研究所に写真の同定依頼が有り、その紹介により日本雁を保護する会の呉地正行氏から「首環がない個体も一定の割合でいて、亜種シジュウカラガンの幼鳥であろう。」という回答を得られたとのこと。かつて東京湾には少なからず渡来していましたが、1930年頃以降は激減しました。近年になって東北地方などに渡来する個体数が復活し、東京都では久しぶりの記録になりました。なお、同一と思われる個体が世田谷区の大摩川で5月5日に記録されたことがウェブ上に掲載されています。

(野鳥記録委員 大塚 豊)